

名張市教育センターだより 第9号

平成29年11月29日(水)発行

創る

〒518-0485

三重県名張市百合が丘西5番町25番地

<http://www.nabari-mie.ed.jp/minakuru/>



事務室・教育よろず相談 1F

Tel 0595-64-8801 Fax 0595-64-8802

E-mail:kyouiku-ce@city.nabari.mie.jp

minakuru01@nabari-mie.ed.jp

適応指導教室(さくら教室) 2F

Tel 0595-63-7830 Fax 0595-63-7830

E-mail:sakura@nabari-mie.ed.jp

学校ボランティア室 1F

Tel 0595-64-8864 Fax 0595-64-8802

名張市小中学校音楽会

10月20日(金)に小学校の部を、11月9日(木)に中学校の部をADSホールで開催しました。

小学校の部では、各校5年生で創り上げてきたすばらしい演奏がホールいっぱいに響きました。人数の多い少ないは全く関係がなく、各校の持ち味が精一杯出されました。一生懸命に演奏する子どもたち、聴いている子どもたち、保護者とも一体となり、すばらしい音楽会になりました。

一方、中学校の部は、3年生全員参加による音楽会が開催できました。各校それぞれの特色ある演奏で、聴いているものに感動を与えるものでした。最後の全員合唱『大切なもの』は圧巻で、名張市内の中学3年生の歌声がひとつになった、と思えるひとときでした。

観覧を希望される保護者の方全員に参加していただくことができなかったのですが、観覧してくださった方のアンケートの一部を紹介させていただき、少しでも感動を伝えたいと思います。



【観覧者のアンケートより】 〈小学校の部〉

- 友だちと心を一つにして、堂々とした姿で歌っているのが印象的でした。たくさん練習したのだらうと思いつつ、感動しました。すてきな時間を過ごすことができました。
- 緊張感漂う雰囲気の中で、演奏できたことは、子どもたち一人ひとりの意識が高かったからだと思います。諸先生方のご指導のおかげと感謝しております。音楽をする楽しさ、音楽を伝える楽しさを子どもたちは今日の音楽会で多くのことを吸収できたのではないかと思います。素晴らしい演奏会でした。
- 他の学校の子どもの発表を観ることができ、子どもにとってもいいし、親にとってもいいと思いました。ずっとこれからもこの音楽会が続いてほしいと思います。

〈中学校の部〉

- 各中学校のみなさんがそれぞれ大きな声を出して、全力で歌っている姿に感動しました。桔中のやわらかさ、赤中の迫力ある歌声、北中の合唱ハーモニーのすばらしさ、名中のきれいな歌声、南中の思い入れが伝わってくる歌声。どれもすばらしく、涙が出てきました。子どもたちは成長しているんだと、改めて確認できました。



名張市立学校・園美術展覧会

- 1 主催 名張市教育委員会
 - 2 会期 平成29年12月1日(金)～12月4日(月)
 - 3 会場 名張市立つつしが丘小学校 体育館
 - 4 会館 午前9時～午後4時30分(12月4日は正午まで)
 - 5 展示作品 図画、工作・工芸、書写
- 子どもたちの思いのこもった作品がたくさん展示されます。ぜひ、お越しください。

教育センターにいる3びきのオオサンショウウオを紹介します。

【平成27年10月頃生まれ】

りゅうちゃん(16cm、23グラム)

オレンジちゃん(13cm、16グラム)

しょうちゃん(12cm、10グラム)



錦生赤目小学校1年生のみなさんが、名前をつけてくれました。ぜひ、会いにきてください！

ふるさと学習「なばり学」

名張市では平成32年度より、ふるさと名張を理解し、誇りや愛着をもち、ふるさとを語る事ができる子どもたちを育成するという目的で、「ふるさと学習『なばり学』」の学習を始めます(平成30年度より一部試行)。それに先だって、今年度、名張市教育センタープロジェクト研究として、「郷土について学習し、郷土について考える機会を充実させていくことにより、将来、自信を持って名張のことを語る児童生徒を育成する」ために、実際に現地に行き、地域のボランティアの協力を得て見学をすることで、ふるさと名張のすばらしさを実感させる研究を進めてきました。(今年度は3つの項目を研究しています。)



ぶどうづくり名人



赤目四十八滝



名張の工業【オキツモ(株) ショールーム】

実際に現地に行き、見学・体験をしたり、話を聞いたりすることで、子どもたちはいきいきとした表情で学習に取り組んでいました。3つの学習に共通している感想は、「自分たちの住んでいる名張にこんなすばらしいところがあるのを初めて知った。」ということです。年度末にはプロジェクト研究に関わる子どもたちの様子や資料等をまとめ、今後の取組に生かしていきたいと思ひます。